

本紙コーナー「反射鏡」の性別表記を考える

性別聞く理由の説明を

性的少数者支援に取り組む筑波大の土井裕人助教(人社系)は、選択肢を設けず、自由回答をもらう方式が、回答者の負担が少ないと考える。「紙面で、



河野禎之助教



土井裕人助教

説明と同意が重要に

「反射鏡」が現在の形になったのは第315号(2014年7月発行)からだ。当時、編集長だった平嶋健人さん(平成27年度社会学類卒、現全国紙記者)によると、それまでは投書形式で、3人程度の学生の声を掲載していた。だが、投書が集まらず、匿名での街頭インタビュー形式にした。第315号では所属・学年のみの記載だったが、



平嶋健人記者

14年に現在の形に

第316号(同10月発行)から性別を入れた。平嶋さんは、「一人当たりの文章を短くし、多くの人から性別を短くし、多くの筑波大生の意見を拾い上げるようにした。性別を入れたのは発言者の情報量を増やすためだった」という。



投書形式の第314号(右)と現在と同じ形式の第316号(9月24日、本紙編集室で) = 太田碧撮影 ※画像は一部加工しています

記事で性別表記は一般的

匿名者の性別記載は、新聞記事では一般的だ。記載はなくてはならないだろうか。性的少数者への取材を続けている毎日新聞の藤沢美由紀記者は「男性と女性では経験や置かれている立場が異なることがある。性別表記を一律になくすと、その差や問題点が見えなくなってしまう」と話す。

毎日新聞も、あるテーマに沿って街の声を集め、紹介してきた。

記者の目

筑波大学新聞の新人編集部にあって「反射鏡」取材は、記者活動の第一関門だ。見知らぬ人に声をかけるといふ取材のノウハウが身につくからだ。私も1年生の時から何度も取材に加わった。最初はとても緊張し、優しそうな雰囲気の人を選んで声をかけたりしていた。それでも思いもしないさまざまな話が聞けることから、次第に楽しくなった。取材相手に所属と学年、性別を聞いて断られたことは今まで一度もない。

しかし、先輩記者から「男女の別を聞くだけでは、性的少数者は違和感を感じる取材をしている」と言われ、性別を答えたいと悩んでいた人がいた。そうにしていった人がいた。編集会議で「男性・女性・その他・無回答」と選択肢を増やし、質問紙で回答を求めると提案した。口頭では回答しにくいと思う性的少数者も多いと考えたからだ。



性の多様性 SOGI/LGBT+

性自認は自分の性をどのように認識しているか、どのような性のアイデンティティを自身の感覚として持っているかを示す概念。「性同一性」と呼ぶ場合もある。

毎日新聞社長室の鈴木泰広・広報担当は「新聞報道では、社会の多様な声を掲載する必要があり、匿名で性別表記をしないと、男女の割合が偏りすぎてしまうから。例えば、トランスジェンダー男性と回答された時は、話の文脈によって男性と書くことも、トランスジェンダー＝男性と書くこともあっていいのではないかと」と語る。

トランスジェンダー＝戸籍上の性別と出生時に割り当てられた性別と異なる性別を生きて、また生きる

新聞社の記者への取材に性別を入れる、入れないの判断は難しい。理由から、従来通り「反射鏡」の匿名回答者の表記に性別を一律で入れることで編集部の意見が一致した。また、性別を聞く際には、口頭より質問紙を用いた方が、性的少数者の負担が少ないと言った。だが、性自認の在り方は多様で、どう聞き、どう表記するか自体、難しい問題だ。編集会議でも、自由記述方式にするか、選択肢方式にするか、自由記述と選択

取材相手の性自認尊重したい

ある非当事者の学生たちが交流する筑波大の学生団体「サークルQ」の代表を務めたAさんは、戸籍や身体の性別は男性だ。しかし、自分自身はXジェンダー。男性でも女性でもない「無性」と認識している。疲れる」と話す。

質問紙が望ましい

自由記述が答えやすい

質問紙が望ましい



オンライン取材に応じる毎日新聞の藤沢記者(下段左)と鈴木広報担当(下段右)。上段は本紙記者

自認する性を回答可と明記を

多様な性自認にどう対応

性自認のあり方は多様な



三橋順子さん



オンラインで議論する本紙の編集部員

「質問紙には『男性』『女性』『その他』『無回答』に加え、自由記述欄を設けてほしい。当事者がじっくりと性自認を書くことができる」とAさんは話している。Xジェンダー＝性自認が男性にも女性にも当てはまらないと認識している人、流動的だと感じている人、また性自認を明らかにしたくない人などがある。Aさんは「自分は性別のことをあまり考えずに生活している。男女の別の性別の回答を求められれば男性と答えるが、身体が男であることをその度に呼び起される、疲れる」と話す。

しない人など性自認について特定の、あるいは固定的な認識を持たない人の総称として用いられる。三橋さんは「自由記述欄があれば、自分は『トランスウーマン』と書く。『その他』という言葉のニュアンスには疎外感がある。また、性自認を表明したくない人もいると思うので『無回答』も選べるようにすべきだ」と語った。

「自由記述の内容の表記は取材時に個別に相手とやり取りし、同意を得た上で記載する。」

記者の声



大和祐菜

五輪契機に政治に関心を 若者こそ声上げよう

五輪・パラのレガシー

【6・7面に「筑波大と五輪・パラ」特集】東京五輪・パラリンピックは多くの感動を与えてくれた。中でも、日本が銅メダルを獲得したパラリンピック・ゴールボール女子のプレーが目に焼き付いている。意地負けを頼りに、どうしてあんなに素晴らしい関係プレーができるのか。その役割を真っ先に担うべき人間の可能性を改めて知った。筑波大関係者の活躍も目覚ましく、在学生だけでも人がメダリストになった。

一方で、山口香教授(体育系)は、大会開催前から問題として、大会開催前から問題と

なっていた。東京五輪・パラリンピック組織委員会の会長だった森喜朗氏の女性蔑視発言。森氏の発言を聞き、先輩男性記者と一緒に取材に出向いた際の出来事を思い出した。先輩だけが相手の男性から名刺を渡された。相手に女性を軽く見る意図があったかどうかは分からなかった。若者の政治参加を促す団体「NO YOUTH NO JAPAN」の代表で慶應義塾大学の大学院生、能條桃子さん。森発言に抗議し、再発防止を求めるオンライン署名の発起人となり、10日余りで約16万筆を集めて組織委に提出した。署名提出前に森氏は会長辞任など、社会に対し声を上げ続けてきた。「今回の大会をきっかけとして、多様な意見をきちんと発信できる社会になれば、それは日本にとって非常に大きな財産になる」と語る。

選挙も、自分の意見を社会に発信する一つの方法だ。自民党の総裁選を経て、今年10月には衆院議員の任期が満了になる。総選挙が目前に迫っている。前回2017年の総選挙では20代の投票率は33・85%で各年代の中で最低だった。同年代の皆さん、投票することから始めてみませんか。(筑波大学新聞編集長・障害科学類3年)

筑波時評

芸術文化 コロナ禍でのオペラ公演 各国の位置づけに違いも

オペラ制作は、インディーズに例えられる。ワインはブドウの品種、産地、収穫年、ブレンドなどに作り手の創意工夫が加わり、どんなコンディションでどんな料理と合わせるかで最終的な味わいが決まる。オペラの制作もスケジュールリングに始まり数年かけてプランを詰め、歌手・合唱・管弦楽・照明・大道具・字幕など数百人規模のスタッフ、コンマ何秒の精度で呼吸を合わせる。私たちが劇場、二や劇場、どこに干渉万別。飛

上がったのだが、その矢先にコロナ禍が襲った。多くの公演が涙を飲んでキャンセルされたが、長引くにつれ各国の芸術文化の位置づけ、捉え方の違いが見えてきた。

州や自治体の補助金が劇場の屋根を支えるドイツでは雇用は守られていたが、ニューヨークやシドニー、ロンドンなど世

界中の名門歌劇場で大胆にリストラや賞金カットが行われた。9月は新シーズンの始まり。季節だが、現在、不安を抱える。多くの劇場が再開し始めている。日本は劇場が完全に閉鎖した期間は短く、首都圏ではオペラ公演は昨夏から行われていた響きになる。オーケストラ・ピットは狭いので、大編成の演目には工夫が必要だ。

また、外国人歌手が来日できなくなり、日本人の出番が増え、チャンスをうまくつかんだ歌手の熱演や若手の成長に接する。試みはいろいろあったが、今

コロナはアーティストの社会的立場の問題もあぶり出した。ドイツでは首相や文化大臣がいち早く援助を表明したが、ニューヨークでは劇場と被雇用者の間に激しい労使対立が見られた。日本は社会や政治に積極的に訴える動きは全体に弱かったように感じる。一番大きな打撃を受けるのはフリーランスといふのはどの国・どの職業も同じで、実態の把握が難しい故に一層深刻である。

反射鏡

あなたの節電・節約術は?

外出自粛やオンライン授業などが続く中、「おうち時間」が増えた。それに伴って、光熱費の出費も増えたという人も多いのではないかと。筑波大生が普段行っている節電・節約の工夫についてオンライン会議システムなどを利用して聞いた。(坂田利通||人文科学類1年、細井真生||同2年、西村大祐||同4年、山田優芽||比較文化学類2年、車谷都美||社会学類2年)

【社2年・男性】 目分(かり、お金の管理も買い物をする際は、クレジットカードやQRコード決済など9種類の決済方法を使い分け、年間1〜2万円は無頓着だったが、近々車検で大きな出費があるので意識するようにした。料金は給与が振り込まれる口座と同一なので、入出金が

【社2年・女性】 小さい頃から節約するようになっていた。電気をこまめに消す習慣が身についており、気づかないうちに電気の消費量が抑えられていることはあると思う。また、暑に強いので、夏は扇風機で過ごしており、35度を超えないとエアコンをつけたい。苦痛なく結果的に節電できている。

【資源2年・女性】 食費を1日300円に抑えている。ウェブでスーパーのチラシなどを見て、その時々なるべく安いものを食べるようにお店を使い分け、肉は月2回ある安売りの時にまとめて買っている。その日安く購入した食材に合わせて作る料理を決めているので、食材に余分な出費をしないように。外出する時は弁当を作り、外食は控えている。



イラスト=大橋翔和(比較文化学類1年)

同じ語でもアクセントに世代差

体専

タイセン

4拍からなる漢語略語のアクセントは声最後まで下がらない「平板型」が一般的

芸専

ゲーセン

声を最初の拍の直後で下げて発音しており、4拍からなる漢語略語では特異的(高く発音する拍の上に線を引いた)

タイセン トーダイ

タイセン ゲーセン

解説

東京五輪・パラリンピックが終わり、季節は芸術の秋を迎えた。スポーツも芸術も筑波大にとってなじみ深い世界である。それぞれに専門学群があるからだ。筑波大生は体育専門学群・芸術専門学群を「体専・芸専」と呼ぶ。長い単語を縮めて使うのは言語の世界ではよくあることだ。短縮することで頻りに耐えやすくなる。仲間の言葉として性格も強ま

【タイセン・ゲーセン】の発音は異なる。これらの略称を用いるのは、その人が筑波大関係者だということを示している。少し気になるのはそのアクセントだ。筆者は30年ほど前に筑波大で学生生活を送ったが、その当時から自分の耳に馴染んでいるのは「タイセン・ゲーセン」のような声の下がり目のない型(平板型)だ。しかし、近年の筑波大生の中には「タイセン・ゲーセン」として、前の世代とは別の世代に属していることが言葉の上で示されているというわけだ。

ともあれ、「タイセン・ゲーセン」がいつ頃から広まり始めたのか、また、目下どの年齢層まで広がっているのか、疑問と興味は尽きない。(那須須夫||人文科学系・准教授)



筑波発! キャンパスことば



筑波大教員と筑波大生に聞く 東京五輪・パラ開催の価値とは

コロナ下で、世界のトップアスリートたちが集った東京五輪・パラリンピック。無観客の会場が繰り広げられ、五輪史上初のトランスジェンダー女性の出場など新しい風も吹き込まれた。その一方で、新型コロナウイルスの感染拡大も指摘され、持続可能性に反する併当大量廃棄問題などの課題も浮かんできた。今大会から発せられたメッセージを、私たちはどう受け止め、どう生かしていけばよいのか。各分野で研究を進める筑波大教員らに取材し、今大会を振り返った。(及川千翔、西村大祐、人文学類、北川瑠菜、比較文化学類、車谷都実、社会学類、大和祐菜、障害科学学類、中山友明香、生物学類)

社会全体の課題浮かぶ

1988年ソウル五輪の柔道女子52kg級銅メダリストで、日本オリンピック委員会(JOC)の理事を今年6月まで10年間務めた山口香教授(体育系)に、五輪・パラ開催の意義について聞いた。

(聞き手・大和祐菜)

——東京五輪・パラを見「前」といった風潮があった。率直にどう感じたか
 選手活躍は素晴らしいが、果たしてそれが本当に「前」なのか、という疑問はつきやう。今大会も、海外から選手が訪れることを見越して外国語を学ぶなど、「おもてなし」のために準備してきた国民もいた。この感染が拡大して、複雑な思いがあった。今回の五輪・パラを通して、ジェンダー平等や差別、メンタルヘルスに関する問題など、アスリートだけでなく社会全体の課題が見えてきた。今後五輪・パラの在り方を再考し、今後につなげることで、初めて「価値があった」と言えるのではないだろうか。

——大会開催の意義は何だったか
 最も大きいのは「五輪とは」というテーマを問うこと。ポシウム場の場を設けることで、市民が未来を考えた。大会開催の意義は、文化競技だけではなく、「文化

——五輪・パラの特別な価値は何だったか
 次世代を担う世界中のアスリートが一堂に会し、スポーツを通じて交流することの意義は大きい。また、競技だけではなく、「文化プログラム」を通してスポーツや国際交流に関するシンポジウム場の場を設けることで、市民が未来を考えた。大会開催の意義は、文化競技だけではなく、「文化



オンライン取材に応じる山口教授

大会では、選手と国との関係の危うさや国際政治に潜む緊張も感じられた。五輪の陸上女子ベラルーシ代表、クリスティーナ・ツィマノフスカ選手は、期間中にポーランドに亡命した。自身のSNS(ネット交流サービス)の書き込



秋山肇助教

国家の影ちらつく

大会では、選手と国との関係の危うさや国際政治に潜む緊張も感じられた。五輪の陸上女子ベラルーシ代表、クリスティーナ・ツィマノフスカ選手は、期間中にポーランドに亡命した。自身のSNS(ネット交流サービス)の書き込

秋山肇助教(人社系)は「国の資金的な支援を受け、個人を応援する人が増えるかもしれない」と秋山助教は話す。

「楽観バイアス」で感染拡大も



原田隆之教授

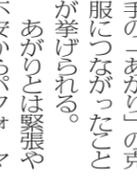
たと思うが、そのような困難の中でコンディションを整え、五輪に挑んだ経験は、今後に向けても大きな学びとなったのではないかと。山口教授自身もJOCの理事として五輪・パラの開催について発信を続けてきた。

多様な意見をきちんと発信できる環境があることは非常に大事なこと。コロナや五輪の議論をきっかけに、若い人にも政治に関心をもちたい。日本を持てどう描いていくのか、一人一人が意思表示し、作り上げていくことが大事だ。そういったムーブメントにつながれば、コロナ禍での自国開催となった五輪・パラがレガシーを残したことになるのではないだろうか。

山口香(やまぐち・かおり) 1964年生まれ。東京都豊島区出身。筑波大体育専門学群卒、同体育研究科修了。84年の世界選手権の柔道52kg級で日本女子初の金メダルを獲得した。

原田隆之教授は「楽観バイアス」を強めたうえで、五輪という「お祭り」の開催と自粛要請という矛盾したメッセージ

無観客選手に影響も
 良い面としては選手「あがり」の克服につながったこと。あがりとは緊張や不安からパフォーマンスが低下する現象のこと。賞金がかわっている、キャリアを左右する大会で、無観客選手の影響を受けた。どの国の代表かではなく、1人の選手として、個人を応援する人が増えるかもしれない」と秋山助教は話す。

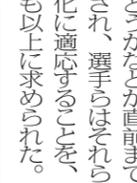


雨宮怜助教

無観客選手に影響も

無観客での大会開催は、選手にとってメリット・デメリットの両面があった。良い面としては選手「あがり」の克服につながったこと。あがりとは緊張や不安からパフォーマンスが低下する現象のこと。賞金がかわっている、キャリアを左右する大会で、無観客選手の影響を受けた。どの国の代表かではなく、1人の選手として、個人を応援する人が増えるかもしれない」と秋山助教は話す。

自国開催となった大会では、テレビやインターネットで、これまでにない多くの試合の映像が流れ、選手が五輪は少なくとも185人、パラリンピックは同36人に達し、いずれも過去最多になったという。性的少数者支援に取り組む土井裕人助教(人社系)は「性的少数者の存在が五輪・パラという大イベントで可視化されたことは大きな意味がある」とした上で、「アスリートにとって、自分の性自認や性的指向を周囲に隠すことはストレスになり、パフォーマンスに影響を及ぼす」とも指摘。そうした理由から、カミングアウトは「非当事者の目には見えない」とも話している。



齊藤まゆみ准教授

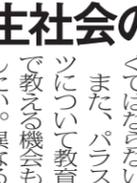
性的少数者の可視化に意義

東京五輪では、大会史上初めてトランスジェンダー女性が出場した。ウエイティング女子87kg級に出場したニュージランドのローレル・ハバード選手だ。米スポーツ専門メディア「アウトスポーツ」によれば、「LGBTQ」だと公言して大会に参加した選手が五輪は少なくとも185人、パラリンピックは同36人に達し、いずれも過去最多になったという。性的少数者支援に取り組む土井裕人助教(人社系)は「性的少数者の存在が五輪・パラという大イベントで可視化されたことは大きな意味がある」とした上で、「アスリートにとって、自分の性自認や性的指向を周囲に隠すことはストレスになり、パフォーマンスに影響を及ぼす」とも指摘。そうした理由から、カミングアウトは「非当事者の目には見えない」とも話している。



土井裕人助教

パラスポーツの普及で共生社会の実現を
 パラスポーツの普及を通して、共生社会への理解を深めることが大切だ。パラスポーツの普及を通して、共生社会への理解を深めることが大切だ。パラスポーツの普及を通して、共生社会への理解を深めることが大切だ。



齊藤まゆみ准教授

パラスポーツの普及で共生社会の実現を

パラスポーツの普及を通して、共生社会への理解を深めることが大切だ。パラスポーツの普及を通して、共生社会への理解を深めることが大切だ。パラスポーツの普及を通して、共生社会への理解を深めることが大切だ。



大会の持続可能性に課題残す



立花敏准教授

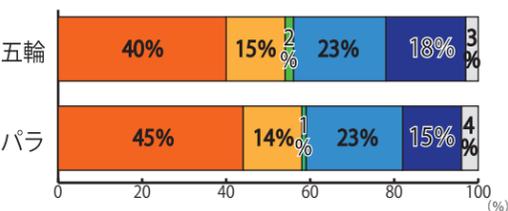
東京大会は2015年に採択された国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現を掲げた。五輪を巡っては、資源の浪費などの批判がかねて指摘され、IOCも1996年、五輪憲章に持続可能性の尊重を盛り込んでいた。

東京五輪・パラ組織委員会は目標実現に向け、競技会場や選手村などで使う電気は再生可能エネルギー100%にし、二酸化炭素を排出しない電気自動車などを活用した。

筑波大生 開催に賛否

筑波大生はコロナ禍での東京五輪・パラをどう見たのか。本紙は8月26〜31日にウェブ上で「東京五輪・パラリンピックに関するアンケート」を実施した。

大会開催についてどう思うか



筑波大ではスイスの五輪話も聞いた。初めて外国選手を応援... 筑波大で事前合宿を行って、そのサポート役となった学生がいた。

Hello! 先端研究



道喜将太郎助教

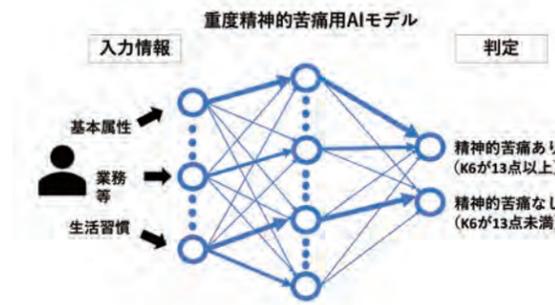
全世界で2500万人がうつ病を患っていると言われる。政府は2015年、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。

客観情報でうつ状態を判定

AIが精神医学を支える未来へ

うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的な労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。

客観情報でうつ状態を判定するAIモデル。入力情報として、基本属性、業務等、生活習慣が提供され、AIが判断する。



(図は道喜助教提供)

代表選手団が事前合宿を行って、そのサポート役となった学生がいた。この他にもボランティアに参加したり、テレビ観戦を決め込んだり、五輪・パラごまごまな関わりをした学生の話を聞いた。



舞台俳優 星善之さん

「続けることに、意味がある」。この言葉は、文学入学生時代に演劇サークルに入るかどうか悩んでいた僕に、演劇の恩師がかけてくれた言葉です。

「続けることに、意味がある」。続けるに、思いがある。続けるに、思いがある。続けるに、思いがある。

信念があれば大丈夫

「続けることに、意味がある」。続けるに、思いがある。続けるに、思いがある。続けるに、思いがある。

「続けることに、意味がある」。続けるに、思いがある。続けるに、思いがある。続けるに、思いがある。

東京2020の舞台上で躍動 筑波大生2人がメダリストに



写真:西村尚己/アフロスポーツ

守備の要「センター」として堅実な守りを見せる高橋

高橋 初出場 で銅

準決勝敗戦バネにメダル獲得

ゴールボール
パラリンピックの女子ゴールボールが8月25日、9月3日に幕張メッセ(千葉県美浜区)で行われ、日本代表は銅メダルを獲得した。初出場の高橋利恵子(障害P2年)は3試合に先発出場し、守備の要としてメダル獲得に貢献した。

ゴールボールは、目隠しをしたプレーヤーが鈴入りのボールを転がして相手のゴールを狙い、得点を競う。予選リーグ初戦は8月25日のトルコ戦。リオデジャネイロ大会金メダルの強豪に1-7で大敗した。高橋は「初出場で緊張してしま

い、実力を発揮できなかった」と振り返る。だが、その後立て直し、2勝1分け1敗のグループ3位で決勝トーナメント進出を決めた。

同トーナメント初戦のイタリヤ戦に4-1で勝利し準決勝に進むと、再びトルコと対戦。初戦の敗戦の反省から、守備位置を下げ、ボールを止めやすくする作戦を取ったが、5-8で敗れた。

高橋は「金メダルを目指していたため、悔しい敗戦だったが、市川喬一監督に『メダリストがいかか、パラリンピアンがいかか』と言われ、メダル獲得に向け

てメンバーが気持ちを共有できた」と振り返る。銅メダルのかかった3位決定戦の相手はブラジル。高橋は先発出場し、守備で活躍。後半残り2分49秒で途中交代するまで無失点に抑え、チームは6-1で勝利。日本代表は金メダルを獲得したロンドン大会以来、2大会ぶりのメダル獲得となった。

高橋は「初めはとても緊張したが、最高の舞台で楽しんでプレーしよう」と切り替えられた。メダル獲得をきっかけに、より多くの人にゴールボールを知ってもらいたい」と話した。(大和祐彦)

梶原 悔しさ残る銀



写真:望月秀太郎/アフロ

日本人女性初のメダルとなったが、パリ五輪での更なる活躍を誓った梶原

「観客の声援力に」

伊豆市)で行われた自転車競技女子オムニウムで、梶原悠未(体育P2年)が銀メダルを獲得した。五輪のメダル獲得は初めての。梶原は2020年の世界選手権(ドイツ・ベルリン)の王者として金メダルを目指してレースを行った。オムニウムは1日に4種目を行い、各種目で獲得した合計ポイントで争う。1種目の「スクラッチ」を2位でゴールし、38点を獲得する好調な滑り出しを見せると、2種目の「テンポ」では5位、3種目の「エリミネーション」では2位となり、それぞれ32点、38点を獲得した。この時点で合計108点となり、1位と2点差の2位につけた。

最終種目の「ポイントレース」は、250回転ラップを80周(20分)し、10周ごとに通過順に応じたポイントが与えられる。梶原は残り9周時点で落車したものの、落ちていてレースに復帰し、2点を獲得。合計110点で1位と14点差の2位で競技を終えた。

梶原は「持っている力を出し切って銀メダルを獲得できたが、金メダルを目指していたので悔しい。(伊豆ペドロロームは有観客での開催で)観客の拍手がレース中も聞こえ、力になった。自転車を、これからも日本の女子がメダルを取り続ける競技にするために、パリ五輪では金メダルの獲得を目指し、自分自身が道を走ってきたい」と話した。(大和祐彦)

榎本 シンクロで5位

「互いに信頼しあえた」

水泳競技



板飛び込みで演技する榎本=本人提供

7月25日に東京アクアティクスセンター(東京都江東区)で行われた五輪の女子シンクロ板飛び込みで、榎本遼香(体育2年)と宮本葉月(近畿大)とペアを組み、5位入賞を果たした。同調性ある演技を続けたが、5本目で入水が乱れ、メダルは逃した。

女子板飛び込みにも出場し、準決勝まで進んだ。榎本は「もっとできたという悔しさも残るが、今後につながる大きな試合だった」と振り返る。

榎本と宮本が東京五輪に向け、ペアを組み練習を始めたのは2018年秋。

榎本は栃木県、宮本は大阪府が拠点のため、毎月代表合宿でシンクロ演技の練習を重ねた。新型コロナの影響で、一時期練習ができていない期間も8カ月あった。だが、「練習や大会を経て互いに信頼し合えるペアに成長していった」という。

「今まで国内大会優勝や、世界大会出場経験はあったが、今回はこれまでに一番多くの人から応援をもらった。東京五輪が特別な大会だということを感じた。五輪をきっかけに、飛び込みという競技を知ってくれる人が少しでも増えたらうれしい」と話した。

榎本は今後について、「オリンピックという肩書きを持つことになる。プレッシャーもあるが、それを乗り越えてもっと良い演技をしていきたい」と意気込むとともに、来年の5月に開かれる世界水泳を見据えている。「今回戦った選手も出場すると思うので、リベンジの意味も込め、しっかりと代表権を勝ち取って出場したい」と語った。(中山友香)

パラカヌー 一つ順位上げ7位 瀬立 2大会連続入賞

カヌー

9月2〜4日に海の森水上競技場(東京都江東区)で開かれたパラリンピック

のカヌー女子カヤックシングル200m(運動機能障害K1L)で瀬立モニカ(体育4年)が7位となり、リオ大会に続き連続入賞した。会場の江東区は瀬立が生まれ育った地元。目標のメダル獲得はならなかったが、決勝では準決勝のタイムを大幅に短縮するなど、リオからの5年間の成長を地元の人々にも印象付けた。

瀬立は高校1年時のけがで「体幹機能障害」を負った。パラカヌーを始めたのはその翌年の2014年。16年のリオ大会でいきなり8位入賞を果たし、大会後には「東京大会での表彰台を目標に掲げていた。」

2組に分かれて戦い、各組1着だけが決勝進出する2日の予選で4着となり、4日の準決勝に回った。

準決勝も2組に分かれて行われ、各組3着以内で決勝進出となる。第1レース

筑波大と五輪の関わり 多くの選手輩出

筑波大は、前身の東京高等師範学校の時代から、五輪とは深い関わりがある。同校の校長を務めた嘉納治五郎は1909年、アジアでは初めて国際オリンピック委員会(IOC)の委員に就任した。スポーツ人類学を専門とする真田久特命教授は「日本の五輪ムーブメントは嘉納から始まった。多くの筑波大関係者が運営面でも大会を支えた。五輪ムーブメントに筑波大が深く関わってきたから、誇らしい」と話した。(北川瑠華)

今日大会には、多くの筑波大関係者が関わった。選手として大会に出場したのは

弓道 インカレ 女子 25年ぶり優勝

第69回全日本学生弓道選手権(インカレ)の団体戦が8月11、12日に日本カインホール(名古屋市南区)で開催され、女子が25年ぶり4回目の優勝を果たした。男子は準優勝だった。

弓道

男子は5人、女子は3人がそれぞれ4射ずつを引き、合計的中数を争う。

8月12日に行われた女子団体は、2、3回戦で全員が4射全中を的中させる皆中を達成。帝京大を12中対8中、明治大を12中対7中以下するなど順調に勝ち上がった。準決勝の慶應義塾大戦では、高田実怜(体専3年)が皆中し、10中対9中で際どい勝利を収めた。決勝は四国大との対戦となった。高田と今井南(同1年)が皆中し、11中対8中で優勝を決めた。



全国選抜に引き続き、インカレを制した筑波大女子=弓道部提供

8月11日に行われた男子団体では、3回戦で慶應義塾の菊地凛(同4年)中(三番手)の坂本規成(資源4年)が皆中し、17中対16中で競り勝った。準決勝の明治大戦は16中対12中で快勝した。

決勝の相手は専修大。両者17中で並び、両チームの選手が1射ずつを引き、的中数の多い方が勝利となる「同中競射」にもつれ込んだ。1射目は同点で2射目に突入。筑波大は3中にとどまり、全員が的中させた専修大の勝利となった。主将の小坂麻露(体専3年)は、「大会を通し、誰かが外しても次の人が当てるのができていた。準優勝だったが、今後につなげる大会になった」と話した。

優勝した女子は、11月22、23日に伊勢神宮(三重県伊勢市)で開催される第45回全日本学生弓道女子主座決定戦への出場が決まった。第2セットも接戦となった。

インカレ 阿部 女子単と複でベスト4 「攻撃力を上げていきたい」

テニス

全日本学生テニス選手権(インカレ)が8月12、24日に四日市アニスセンター(三重県四日市市)で開催された。女子シングルスで阿部安美(体専3年)がベスト4入りした。また、ダブルスでは男子で田形諒平(同4年)と中村元(同1年)ペアが、女子では阿部と西尾萌々子(同1年)ペアがそれぞれベスト4に入った。

女子シングルの阿部は準決勝で今田穂(慶應義塾大)と対戦。第1セットはタイブレークまでもつれ込む接戦の末、6-7で落とされた。第2セットも接戦となったが、7-5で取り返した。第3セットは阿部が5-2とリードしたが、その後盛り返されて再びタイブレークへ。今田の勢いを止められず、6-7で奪われ決勝進出を逃した。



単複ベスト4の阿部=全日本学生テニス連盟提供

阿部は「昨年度の大会でシングルス、ダブルスともに優勝したことがプレッシャーになり、思い切ったプレーができなかった。ベスト4という結果はうれしいが、他の選手の成長も感じ、焦りもある。攻撃力を上げたい」と語った。(山田優芽)

棒高跳古澤 初出場で優勝

女子 4年連続の総合優勝逃す

陸上

大学日本一を決める日本学生対校選手権(日本インカレ)が9月17、19日に熊谷スポーツ文化公園(埼玉県熊谷市)で行われた。初出場の古澤(生体専1年)は、初の優勝を飾った。しかし、



棒高跳で初優勝した古澤=陸上競技部提供

日本インカレ

対校戦で女子は総合6位、男子は同10位となり、女子は4年連続の総合優勝を逃した。筑波大は男女合計12種目12人が入賞した。

男子棒高跳では、同種目の高校記録を持つ古澤が5.40mの記録で優勝した。5月の関東インカレでは5.32mの3位だったものの、8月20日には筑波大新記録となる5.52mをマークし、調子を上げていた。

古澤は「今シーズン前半は腰のけがで満足いく結果が出せなかった。その中で、大学初タイトルを獲得でき、とてもうれしい。日本インカレでは4連覇を目指したい」と話した。

高良は2種目で表彰台

男子は3000m障害で松村匡悟(同3年)が3位入賞するなど、5種目6人が入賞を果たした。

スポーツの顔

今年度は体育会弓道部女子の活躍が目覚ましい。6月の全国大学選抜大会で団体初優勝し、8月の全日本学生選手権(インカレ)も25年ぶり4回目の団体優勝を果たした。

弓道

女子は、走幅跳で吉岡美玲(同4年)が2位となり、筑波大がワンツートを飾った。今年大会の優勝で、全日本中学校陸上競技選手権(2015年)、全国高等学校総合体育大会(16、18年)、日本選手権(17、18年)と、中学から全ての年代で日本一に輝いた。

高良は「初優勝でき、素直にうれしい。今回の優勝をきっかけに、初めて日本一になった中学3年生の頃なかつた部員も含め、団結して3日間を戦うことができた」と話した。(大和祐丞)



団体戦で全国大学選抜、インカレ制覇

今井南 (体専1年)

「弓道は自分の外をなげなければならない。全て自分の責任になる。パスケと違い、練習も自分のペースでできる。それが合っていたのかもしれない」と振り返る。高校2年時の6月に

予選は1位通過したが、決勝リーグは不調で、チームは高校総体出場を逃した。大前の責任を果たすことができた。

「弓道でお世話になっている人に結果を残すことで恩返しをしたい」と謙虚な姿勢も忘れずに、今井の目標は、11月に開催される全日本学生弓道女子主座決定戦での団体戦優勝だ。表現すれば、大学の主要3大会を1年で制覇する偉業となる。(山田優芽)比較化学類2年、写真も)

「負けたくない」

は、全国高校総体の県代表を決める団体戦の予選と決勝で、最初に矢を射る大前に起用された。大きくはげほし」と考

たせず、悔しかった。「もっこんな思いはしたくない。何か変わる動きができなかった。その

課外活動の制限なお続く

窮地に陥る団体活動

【2面参照】筑波大学の課外活動団体の行動が制限された状態が1年半も続く。新型コロナウイルスの感染拡大のため。多くの団体が2年連続で夏合宿などの中止に追い込まれ、OB・OGとの交流や、集中練習で技術を向上させる機会を失った。今年8月から9月にかけての丸1カ月間は、原則として団体活動の全面自粛が要請され、活動はさらに制限された。窮地に陥る課外活動団体を取材した。

(小栗あおい)社会学類2年、寺尾優汰

合宿は親睦深める場

筑波大JAZZ愛好会は、9月下旬に長野県で予定していた4泊5日の夏合宿の中止を8月に決めた。合宿中止は2年連続となる。



2019年の夏、OB・OGまで合多宿に1年参加しては、1年生からから=筑波大JAZZ愛好会提供

定していた4泊5日の夏合宿の中止を8月に決めた。合宿中止は2年連続となる。

合宿場所は、スタジオやライブ会場を備えた宿泊施設。2班に分かれ、その中でバンドを組んで練習を重ね、最終日はその成果を発表するという形で披露するはずだった。

会長の大吉ひなたさん(人文3年)は「合宿は1年生からOB・OGまで幅広く参加し、交流を深めたり、技術の向上を図ったりできる貴重な機会。1年生にとっては初めてバンド練習をする場であり、今年

も多くのメンバーが参加を予定していた。中止は残念だと悔しさを隠さない。コロナ禍は通常の活動にも影を落とす。毎週金曜日に文化系サークル館に集まって、セッションをしているが、人数制限や参加者の健康観察記録の徹底などの対策を取っている。以前はOB・OGもよく参加していたが、学外者との接触を避けるため、それも難しくなってしまったという。

大吉さんは「先輩たちと一緒に演奏は技術の向上につながる。足りないパートを補ってもらうこともあった。それができず、活動に支障が出ている」と話す。

技術を磨く機会失う

筑波大剣道同好会は例年、年3回の合宿を行っているが、昨春以降は全て中止している。今夏は、合宿の代わりに校内の武道場で丸1日、強化練習を行う計画を立てたが、大学からの



木刀でスイングの練習をする会員ら=筑波大剣道同好会

も多くのメンバーが参加を予定していた。中止は残念だと悔しさを隠さない。コロナ禍は通常の活動にも影を落とす。毎週金曜日に文化系サークル館に集まって、セッションをしているが、人数制限や参加者の健康観察記録の徹底などの対策を取っている。以前はOB・OGもよく参加していたが、学外者との接触を避けるため、それも難しくなってしまったという。

こうした状況の中、メンバーの士気は低下傾向にある。山本さんによれば、コロナ禍前は毎回10人以上が稽古に集まっていたが、全面自粛前の数カ月は多くて6、7人で、1人しか参加しない日もあった。

山本さんは「2年生以下のメンバーは、活動自粛の影響で、そもそも顔を合わせる機会が少なかった。同好会の新たな役職決めの話合いもできていない」と話す。

それでも、全面自粛の要請前は週3日、武道場で活動していた。これも中止となった。主将の山本賢生さん(人文3年)は「長期休みを利用して個人の技術を磨いたり、メンバー間の仲を深めたりする貴重な機会が失われた。残念」と語る。

コロナ禍は、対外試合の機会も奪っている。同会のメンバーが参加してきた「関東甲信越大学体育大会」や「秋季関東理工科系剣道大会」は昨年度から中止されている。

それでも、全面自粛の要請前は週3日、武道場で活動していた。これも中止となった。主将の山本賢生さん(人文3年)は「長期休みを利用して個人の技術を磨いたり、メンバー間の仲を深めたりする貴重な機会が失われた。残念」と語る。

大学説明会 今年もオンライン

ライブ配信の活用拡大

コロナ禍のため、毎夏恒例の筑波大学説明会は昨年にもオンライン開催された。昨年は事前収録した動画の公開が主だったが、今年は在学生や教員と受験生らがリアルタイムで交流する「LIVE配信企画」を総合学域群と19学類・専門学群が8月21、22、28、29日の4日間にわたって実施し、全国の高校生約3000人が参加した。この他、各学類・専門学群の授業や研究、キャンパスライフなどを紹介するオンデマンド動画52本も公開された。

(及川千翔)人文学類2年、太田碧(第2類)1年、北川瑠菜

入試課は7月26日にウェブページ「受験生のための筑波大学説明会」を開設し、8月6日までに各学類・専門学群が発信する37本の動画が出そろった。また、課外活動団体や学生宿舎などキャンパスライフや障害学生支援に関する紹介動画15本も公開した。

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

入試課は7月26日にウェブページ「受験生のための筑波大学説明会」を開設し、8月6日までに各学類・専門学群が発信する37本の動画が出そろった。また、課外活動団体や学生宿舎などキャンパスライフや障害学生支援に関する紹介動画15本も公開した。

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

入試課は7月26日にウェブページ「受験生のための筑波大学説明会」を開設し、8月6日までに各学類・専門学群が発信する37本の動画が出そろった。また、課外活動団体や学生宿舎などキャンパスライフや障害学生支援に関する紹介動画15本も公開した。

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会



オンラインで学類の魅力や大学生活について高校生に説明する日本語・日本文化学類生=同学類提供

8月29日に、学類生による学類紹介と教員による個別相談会をZoomで実施した。学類紹介には30人、個別相談には11人の高校生が参加した。

また、学類紹介の動画に加え、茶道の実習室や音響室など同学類生が主に使用する施設を紹介する動画「日施設ツアー」も公開した。元々は今年の1年生向けに制作したものだが「学内を移動する際の参考になった」などの声が寄せられた。制作を担当した張山紗彩さん(日語3年)は「施設の良さが伝わるように、何をどのよう映すか、構図を工夫した。役に立ったと言ってもらえうれ

い」と話した。同学類が相談会などに参加した高校生に実施したアンケートでは、「志望する

気持が強くなった」「もっと個別に話したかった」とどの感想が寄せられた。同学類広報委員の鈴木伸

気持が強くなった」「もっと個別に話したかった」とどの感想が寄せられた。同学類広報委員の鈴木伸

気持が強くなった」「もっと個別に話したかった」とどの感想が寄せられた。同学類広報委員の鈴木伸

気持が強くなった」「もっと個別に話したかった」とどの感想が寄せられた。同学類広報委員の鈴木伸

気持が強くなった」「もっと個別に話したかった」とどの感想が寄せられた。同学類広報委員の鈴木伸

気持が強くなった」「もっと個別に話したかった」とどの感想が寄せられた。同学類広報委員の鈴木伸

気持が強くなった」「もっと個別に話したかった」とどの感想が寄せられた。同学類広報委員の鈴木伸

留学生の声

ベトナム ミン・グエン

(地球規模課題 学位プログラム)

「ずっと同じ場所に留まっていたくない。視野が狭まってしまう」

日本で学び始めて4年。中東の政治経済についての学びを深めるため、卒業後はドイツの大学院への進学を見据えている。

ベトナム・ホーチミン市出身。母は日本語教師。父も日本語の元通訳者で、中学生の頃には自らも日本語を学んだ。

高校卒業後に若狭学園高校(つくば市稻荷前)に1年間留学。寮での集団生活で「場の空気を読む力」が身についたと笑う。今年も日本語能力試験で最も難しいN1にも合格した。だが、日本や母国ベトナムを含むアジアにこだわりはない。

母国と日本での生活で「アジアは皆、村社会のよう。暗黙のルールに従って暮らしている」と感じるようになった。

「アジアは皆、村社会のよう。暗黙のルールに従って暮らしている」と感じるようになった。

「アジアは皆、村社会のよう。暗黙のルールに従って暮らしている」と感じるようになった。

「アジアは皆、村社会のよう。暗黙のルールに従って暮らしている」と感じるようになった。

気持が強くなった」「もっと個別に話したかった」とどの感想が寄せられた。同学類広報委員の鈴木伸

気持が強くなった」「もっと個別に話したかった」とどの感想が寄せ

海外留学 部分的に再開

依然として渡航難しく

筑波大は7月から、1年間の交換留学プログラムであるなどの条件付きで学生の海外留学を認めた。学生の所属組織からの申請を審査し、国際担当副学長が個別に判断する。ただし、コロナ禍で海外渡航が難しい状況に変わりはなく、留学の許可条件や留学が決まった学生の声を取材した。

文科省の通知受け

今回の変更は、文科省が6月に出した通知「本人学生の海外留学について(周知)」に基づき、

通知は、各大学が学生の安全確保に万全を期すことを前提に、大学間交流協定などに基づく1年間(実際

の派遣期間9カ月以上)の海外留学プログラムの再開を認めている。国内外でワクチン接種が進んでいることなどを踏まえたという。

留学にあたっての留意点として、▽渡航先の感染状況や感染防止策・感染した場合の現地の医療体制の確保▽帰国の防疫措置の把握

長期留学に限って再開を認めたとについて、文科省は▽短期間の往來人数が増える▽感染リスクも高まる可能性がある▽日本への入国制限が続いており、予定通り帰国できない場合がある▽現地に着いても隔離期間の影響で実際の学習期間が短くなる――などを考慮したとしている。

日本学生支援機構では通知に合わせ、留学期間1年間の長期留学に対する奨学金支給を再開した。

筑波大は、外務省が発出する「危険情報」と「感染

渡航申請が可能なプログラム

- ・1年間(実際の派遣期間9カ月以上)の交換留学プログラム
- ・海外大学で学位取得を目指す大学院生向けのプログラム



←留学に関する情報は、
スチューデントサポート
センターのウェブサイトへ

や、帰国ルートの確保▽保険加入の徹底――などを求めている。また、留学を希望する学生のワクチン接種についても、大学に対して可能な範囲での配慮を要請している。

無償で本を受け渡し

コミュニティブックシエルフ管理者募集

2016年、学内の本のリユースを促進するために設置された本棚「コミュニティブックシエルフ」の新しい管理者を、つくば3Eフォーラム学生委員会が募集している。

この本棚は、低炭素社会の構築を目指す同委員会が

期間は9カ月で、発達時期の脳における葉酸の役割について研究する。

昨年9月から留学する予定だったが、コロナ禍で延期になった。今年もできないと考えていたが、文科省の通知発表を受け、8月末に大学から渡航許可が下りた。渡航までの約3週間で急いで準備をしたという。

池田さんは「コロナ禍で人との交流が制限されるため、現地のコミュニティにうまく入れるか不安がある。オンラインも活用し現地の学生と積極的に交流したい」と話した。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航できる準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

池田玲奈さん(生物4年)は、9月20日から英マンチェスター大に留学中だ。

今回の措置を踏まえ、筑波大海外留学支援事業(ははだけー筑大生)の支援も再開された。

池田玲奈さん(生物4年)は、9月20日から英マンチェスター大に留学中だ。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航できる準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

池田玲奈さん(生物4年)は、9月20日から英マンチェスター大に留学中だ。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航できる準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

池田玲奈さん(生物4年)は、9月20日から英マンチェスター大に留学中だ。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航できる準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

池田玲奈さん(生物4年)は、9月20日から英マンチェスター大に留学中だ。

短期雇用の時給引き上げ 茨城県内 4年連続

筑波大は10月1日、短期雇用の時給を筑波キャンパスなど茨城県内では880円(20円増)、東京キャンパスなど東京都内では1050円(30円増)に引き上げた。同日、県と都の最低賃金が879円(前年度比28円増)と1041円(同)に改定されたことに対応した。筑波キャンパスでの短期雇用の時給引き上げは4年連続となる。

筑波大の短期雇用は1カ月以内の期間で採用する雇用形態。大学説明会やシンポジウムでの運営補助、教員の事務補助などが主な業務内容だ。勤務場所は両

キャンパスや附属病院などで、主に筑波大生が雇用されている。業務内容の違いから、ティーチング・アシスタント(TA)やリサーチ・アシスタント(RA)などは雇用形態が異なる。今回の引き上げは、時給が最低賃金を下回らないようにするため、最低賃金額の10円未満の端数を切り上げた額を時給とした。

筑波キャンパスの短期雇用の時給は昨年10月、県の最低賃金が851円に引き上げられたことを受け、860円に改定されていた。(西村大祐)

展示を見た人が、インドを訪れた団員の感覚を追体験できるよう工夫した。

ハンセン病は、らい菌による慢性感染症。手足の知覚がまひしたり、変形したりすることがあるが、感染力は弱い。適切な治療で完治する。

同団体の現地支援では、毎年度、夏と翌春にコロナに約2週間滞在し、雨漏りする家屋の修繕や井戸の新設、コロナ内外でのハンセン病意識調査などを行ってきた。

だが2年前の夏を最後に現地訪問ができておらず、2年生以下は一度もインドに行ったことがない。

メンバーは現在、1年生4人、2年生12人、3

年4人、2年生12人、3

年4人、2年生12人、3

年4人、2年生12人、3

年4人、2年生12人、3

年4人、2年生12人、3

年4人、2年生12人、3

年4人、2年生12人、3

贈の「石井コレクション」は二百余点のうち、藤田嗣治や国吉康雄など美術史上重要な作家作品に焦点をあてて。読者は、美術史学を始めたとする多領域の国内外研究者17人による論考を通して、アートが洗練された知的営為の所産であり、「もの」として豊かな光輝を放っていることあらためて気づけたらう。

◆ A5判並製、436頁。8月27日刊行。5940円(税込込み)。

美をめぐる饗宴

五十嵐 利治 特命教授(芸術系) 監修
寺門 臨太郎 准教授(芸術系) 責任編集

美をめぐる饗宴

筑波大学 出版会 新刊案内

美をめぐる饗宴

贈の「石井コレクション」には有形の学術標本に即した研究教育成果のショーケースとなる附属ミュージアムがある。筑波大にはそれが無いが、芸術系では600点超のアート・コレクションを管理し、学内外での展示や研究会などに活用している。

本書は、コレクションの中核をなす個人所蔵家寄

分も外見にとられずに話しかけようと思ったと、皆が口をそろえた。

長峰さんは「団員が村人と信頼関係を構築する前後の写真を通して、人との接し方について考えてもらいたい」と話す。

写真展のほか、小中学生にハンセン病について伝える出張授業の企画も進めている。指導案を作成し、団体OBに知人の高校教師を紹介してもらい、指導案を見せたところ、依頼を検討したいと伝えられた。現在は具体的な授業の構成を練っている最中だ。

出張授業を提案した青木日花さん(社工2年)は「コロナ感染者への差別や偏見はハンセン病の差別の歴史とつながる。同じ過ちを繰り返さないためにも、無知が差別を生むことを伝えたい」と話した。

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

コロナ禍で紡ぐハンセン病支援



2年前の渡航で、団員が村の子供たちと一緒に絵本を読む様子=同団体提供

インドはハンセン病の新規患者数が世界で最も多い。差別や偏見が根強く、適切な治療を受けられなかったり、職に就けなかったりして、物乞いで生計を立てる人も少なくない。ハンセン病回復

展示したのは渡航中の団員やインドの村人を映した写真8枚。現地へ到着、村人との出会い、初めて会うハンセン病回復者、戸惑いながらも話しかける様子―

Who's Who?

コミュニティナースを全国に

ふさやま 総山 萌 さん (看護4年)



コミュニティナースを看護学生に知ってもらおうと取り組む総山さん=本人提供

「コミュニティナースを知ってもらおう活動を今春から始めた。ナース(看護師)という職業で勤務している姿が思い浮かぶが、総山さんによれば一地域の中で人とつながり、元気を一緒に作ることを実践する人や行参(ごま)のものを指す。カフェの経営者が常連さんなどとの交流会を開き、日常生活

の様子を聞いて、健康状態を気に遣う。これも「コミュニティナース」にあたる。

今年3月には、クラウドファンディングで300万円の活動資金を集め、全国約1000校以上の看護学校にこの実践の在り方を紹介している本の寄贈を始めた。9月には、その実践者と学生がつながるオンライン

イベントも開催した。「看護学生の第一選択は病院への就職だが、それ以外のキャリアもさまざまなにある。キャリアの選択肢を広げ、自らが実践したいケアを見つめ直すきっかけになれば、と考えた」と話す。

小学2年時に母を亡くし、父子家庭で育った。「父に心配をかけたまじと踏ん張る自分」を守ってくれたのが、保健室の養護教諭たちだった。特に高校生の時は心身の不調で教室に行けない日が続いたが、保健室や別室を活用しながら自分と向き合っていた。

次第に自分も養護教諭になりたいと思うようになった。子供の心身の健康を守り、生きる力を高めるために、看護学も教育学も両方極めたい。そう考えて進学先に選んだのが、学内外での学びを後押しする仕組みを設けている筑波大看護学類だった。

入学後は保健室ボランティア

看護学生の選択肢広げたい 目指すはまち中の養護教諭

「まちの中」に在る養護教諭の姿に共通点を感じ、「自分のキャリアを考える良い機会になると考えた」と振り返る。

インタビューでは、主に「地域おせっかい会議」に携わった。地域住民が集まり、それぞれがやりたいことやおせっかいでき

に取組んだ。筑波大近くの小中学校を訪れ、養護教諭と共に来室する子供たちに対応した。そんな中、「養護教諭のような存在がまちの中にもいたら、子供にとって、学校だけでなくまち全体も安心安全な場になると考えるようになった。」

看護実習などで学生生活が忙しさを増す中、大学3年の終わりから1年間休学し、コミュニティナースの普及に取り組む「Community Nurse Company (CNC)」(島根県雲南市、矢田明子代表)でインターンをした。

矢田さんが提唱する「コミュニティナース」と、自分が思い描く「まちの中」に在る養護教諭の姿に共通点を感じ、「自分のキャリアを考える良い機会になると考えた」と振り返る。

卒業後はCNCに加わりながら、「まちの中の養護教諭の在り方も模索していくつもりだ。」(中山友香 生物学類2年)

この経験を多くの看護学生たちと共有したいと、クラウドファンディングに挑戦した。9月のオンラインイベントには全国から100人近くが参加した。イベントを通じて存在を知ったコミュニティナースに会いに行くと学生もいた。「イベントをきっかけに自分のキャリアについて考え、実際に行動する学生がいることがうれしい」と総山さん。

「まちの中」に在る養護教諭の姿に共通点を感じ、「自分のキャリアを考える良い機会になると考えた」と振り返る。

次号は 11月5日(金) 発行予定です

茨城県独自の非常事態宣言が出されたことを受け、夏季休業期間中の課外活動が全面活動自粛になりました。この11面(本紙でも)新型コロナウイルス感染症拡大以降、取材や会議がオンライン化し、後輩部員とかなか対面でコミュニケーションが取れません。残り2カ月ほどで執行部も交代します。先輩から教わった記者としてのあり方を、後輩たちにきちんと伝えることができていたのか、悩む日々です。▼2014年に本紙で編集長を務めた平嶋健人さんを取材しました(障害科学類3年)

した(3面)。本紙の名物コーナー「反射鏡」が、現在の街頭インタビュ形式になったきっかけを聞きました。多くの筑波大生を射撃を通して、経験の浅い後輩部員に取材の経験を積んでもらう狙いがあったそうです。後輩にノウハウを継承するために工夫を凝らす、7年前の先輩の姿が見えました▼本紙は、筑波大設置翌年の1974年から大学を記録し続けてきました。オンラインで交流を図るなど、制約の中でも知恵を絞って、次世代にその営みを引き継ぎたいと思います。(編集長・大和祐菜 障害科学類3年)

編集後記

印刷ヒラマ写真製版

発行所 筑波大学

編集・発行

筑波大学新聞編集委員会

職域接種 1回目完了



大会館でワクチン接種前に問診を受ける筑波大生=代表撮影

学内総合

1面へ

五輪メダリストが表敬訪問



永田恭介学長(中央)に表敬訪問する梶原(左)と永瀬(右)(8月20日、本部棟で)=車谷郁実撮影

学内総合

1面へ

非接触で文字入力



つくばメディアアートフェスティバルの展示を体験する来場者(8月5日、つくば美術館で)=北川瑠菜撮影

学芸

5面へ

体芸エリア コンビニ・食堂閉店



業者によって閉店作業が行われている体芸エリアのコンビニ(7月30日、体芸エリアで)=北川瑠菜撮影

学生生活

10面へ